

第48回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成27年10月9日(金) 午後3時00分～午後5時45分
開催場所	滝川市役所6階 601・602会議室
出席状況	【委員】 出席：石川委員長、山田副委員長、岸下委員、本多委員、高橋委員、 越後委員、水戸委員、貝之瀬委員、佐藤委員 欠席：藤本委員 【事務局】 くらし支援課 横山課長、半井課長補佐、大橋係長、酒井主査、金子主任級主事
議事内容	1 開会 2 報告事項 (1) 平成26年度評価シートについて 前の会議で委員より指摘を受けた部分について、修正箇所を説明した。 (→資料1) 各委員からの意見等はなし 3 協議事項 (1) 滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書(案)について 委員長) 協議事項(1)「滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書」(案)について、その説明を事務局に求めます。 ・事務局より「滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書(案)」について、委員長・副委員長と協議を行い、作成したことを説明した。 ・「滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書」(案)の1～4の内容について説明した。(→資料2) 各委員からの意見等は次のとおり 委員) 2 平成26年度までの取組などに関する評価について第46回の会議で示したアンケート調査の結果でも市民のごみに関する意識が高かったことからその部分も評価の中に入れてはどうか。 事務局) ごみの意識が高いということの裏付けでもあるので評価の中に取り入れることで見直しをする。 委員) 3 今後の取組に向けた提言について、毎年3項目なのか。評価シートが4章から成っているので4項目の方がよいのではないか。 事務局) 平成26年度の新たな取組の中から今後の方向性についてどうあるべきかということの提言としたことから3項目となった。

(2) 第二次滝川市環境基本計画について

※第二次滝川市環境基本計画ワークショップ

事務局より説明を行った。

今回のワークショップの進め方（タイムテーブル）の説明

ワークショップ検討過程の説明（→資料3）

A, B各グループに分かれて協議を行う。

- ・ Aグループ 地球環境、生活環境
- ・ Bグループ 自然環境、環境コミュニティ

○前回のワークショップ内容（模造紙）を提示。前回内容を進行の方で説明した。

○前回の協議内容を「現状・課題」、「あるべき姿・目指すべき姿」、「手法・施策」に分類し、模造紙にまとめ、各項目の足りない部分、協議の必要な部分を皆で出し合い、整理する。

【Aグループ】

■エネルギーを無駄にしないまち（地球環境）

●自然エネルギーの活用

- ・雪が多い、利用されていない。
- ・やっかいな雪を利用できないか。たとえば低温保存とか。
- ・雪を使った冷房（エアコンより体に良い）
- ・農業に限らずエアコン等の利用でもよい。
- ・稲わらを燃やしている。
- ・野焼きは違法だが、農家で最低限の燃やすことは、認めている。
- ・稲わらは、農業でいえばごみにあたるもの。国でも利用されていない。
- ・稲わらの利用（バイオマスとしての活用）
- ・稲わらをすきこんだり、燃やしたりできればよい。
- ・川が多い。（利用できないか）
- ・太陽光はある程度広まっている。利用されている。それ以外のエネルギー活用が足りない。
- ・自然エネルギーを利用増やす。
- ・温暖化を防ぐ意識が高まる。
- ・エネルギーの地産地消は経済にもプラスになる。

●気候変動・災害

- ・東日本大震災の時、公住の開放とか行ったのか。
- 対策は取っていたが、震災地から離れていることもあり、利用は少なかった。
- ・先日の強風で物が飛んだりしたが、普段の意識で防ぐことができるものがあった。
- ・災害が起きたとき、具体的にどんなリスクがあるのかわからない。
- ・防災を行うことで災害から地域の生活や自然を守ることにつながる。
- ・被害の少ないまちづくりが生活を守るだけではなく、自然などの環境保全になる。
- ・災害時に動くことができるよう皆で意識づけること。

- ・災害時に動ける市民、コミュニティの形成。
- ・自然災害について、普段の生活をしっかりとすること。防災知識を皆が共有すること。
- ・皆で意識づけすることで自然災害の備えをしておけばよい。
- ・災害時にどう行動するか。知識を取り入れて勉強しよう。机上でもよいので事前にやっておくこと。
- ・災害によるリスクの洗い出しが必要。
- ・防災をキーワードに町内会で話し合おう。
- ・防災担当者との連携強化が必要
- ・水害については、東日本大震災で被災した人から話を伺い、災害に備えよう。
- ・防災と環境教育の融合が多くなっていること。
- ・温室効果ガスを減らすことで災害が減る。

●地球環境を知る

- ・地球環境の情報が少ない、わからない。
- ・例えば省エネモニターや環境調査がどんなもので他に行っているのかとか。
- ・限られた場でしか情報が得られない。
- ・情報の発信と連携が必要。
- ・自然とふれあえる場を多くする。
- ・子どもたちが自然の中で遊べる環境作りが必要。（こどもは遊ぶことで学ぶ）
例えば砂川のこどもの国。
- ・地球環境を知るには、緑を増やすこと。（自然を知ること）。
- ・ゲームを通じてわかりやすく伝える（消費者まつりで環境について、ゲームを通じて知っていただいた）
- ・行政だけでなく団体で①を行うともっと理解が増える。

●その他

- ・エネルギーを無駄にしない。
- ・今ある資源の有効活用。
- ・車が2万台通る。→エネルギー使えないか。
- ・車の振動（荷重）をエネルギーに活用できないか。

■環境にやさしい循環型社会が営まれるまち（生活環境）

●エコライフスタイル

- ・リサイクルフェアは人気がある。
- ・リサイクルフェアの開催回数を増やすとか、出店舗数を増やしてはどうか。
- ・無駄なものを買すぎる。
- ・使えるものもごみとして出している。
- ・24時間、深夜営業などが増えている。
- ・省エネ機器やLEDの導入の推進。
- ・日常生活の見直しをすること。
- ・健康で環境にやさしい生活を送れること。
- ・早寝早起きをする。夜型生活の見直し。
- ・包装を省くとポイントがつく店を利用するなど、日常の無駄を省いていくことが必要。

●ゴミ対策

- ・ごみ箱がなくなってきた。→ごみは自己責任で。
- ・燃えるごみのエネルギー実績がわかるようになった。
- ・ごみが減っている。
- ・ごみの価値を知ることが必要。
- ・ごみの価値のイメージをお金に換算することで理解できるのではないかな。
- ・ごみ自体は価値がない厄介者だが資源にもなる。
- ・ごみは資源であることを当たり前を感じることに。
- ・自分の出したごみに責任を持つこと。
- ・ごみからエネルギーを取り出していることを PR。
- ・ごみから発電、有効利用していることをもっと PR。
- ・ごみは無駄になっていない、再利用されていることを PR。
- ・地域のごみを拾う時に袋がもらえるのはいいこと。
- ・ボランティア袋の継続。
- ・クリーンデイ春・秋継続。その際の袋の無料も継続して。
- ・町内会の回収告知の強化。（アパートやマンションなど）
- ・もっと負担の少ないごみ回収はないかな。
（単身者が出しやすい→小さいごみ袋、町内会の負担）
- ・コンビニの利用がごみ増加の理由かも。毎回袋が出る。
- ・地元商店による商品の購入システムの導入（袋をふやすコンビニなどに客が流れないよう）
- ・使い捨て容器を使わないようにする→ごみの減量化、何度でも使えるものの利用。
- ・必要のないもの、今すぐ使わないものは、家庭に持ち込まない（買いだめしない）

●その他

- ・小さい消耗品や建物（建築）に至るまで再利用が進んだのはよいことだ。
- ・エコドライブに皆が取り組む。
- ・エコドライブ講習の実施と推進。
- ・2000 回転 60km、5 秒で 20km がエコドライブ。



	→継続的に取り組むとお金がかかる。 ・中にはボランティアでできることも含まれている。 ・大部分は素人ができることではない。 → お金がかかる。 ・緑を大切にといわれるが、街路樹の強剪定は樹木が美しくなる前に剪定してしまう。（東2号通りの銀杏の木をはじめ） ・葉は排水溝に詰まってしまうなど、街路樹に対する苦情は多いが、緑を大切にしたいのであればそのような苦情に対し、行政は市民を説得する必要があるのではないか？ ・大きな木がいつの間にかなくなってしまうことがある。第一小学校のニセアカシアもなくなってしまった。 ・市民憲章でもうたっていることなので、具体的に取り組む必要があるのではないか。 ・学校も行政と同様に苦情を受ける立場。たとえば街路樹の葉が商売などに影響が出るなど苦情が来ればどうしようもない。 ・緑をはじめ環境の大切さをもっと訴えないといけない。木が邪魔者になってしまう。 ・木の良いところをアピールする。 ・アピールするとともに落ち葉対策をどうするかを考えなくてはならない。 ・イベントのついでにゴミ拾いをするという方法もある。イベントとゴミ拾いを楽しむ。 ・秋は市民が楽しみながら落ち葉を拾う仕掛けはできないか？ ・町内会では、クリーンデーなどを通じてゴミや落ち葉拾いの活動に取り組んでいる。そのあとにバーベキューを実施しているところもある。楽しみながらゴミ拾いをする。 ・小学校では落ち葉拾いのあとに焼き芋をしているところもある。 ・野焼きは消防法で禁止されているのでは？ ・最近は囲いを作って安全に焚火をし、その中で焼き芋をする事例もある。 ・バーナーを活用しているところもある。 ・岩見沢市に素晴らしいプラタナスのトンネルがある。市民の苦情があるかどうかかわからない。 ・適度に定期的に剪定をすることで立派なプラタナス並木ができたのだと思う。 ・砂川市のトチノキの並木も素晴らしい。 ・滝川市民は、街路樹は自分たちに恩恵がないと思っているのではないか？ ・街路樹は大気汚染の防止に役立っている。 ・そのような樹木の効用などを定期的に広報たきかわに掲載してはどうか？ ・林務所などの専門家に樹木の効能を聞き、広報に記事を書いて市民に理解を深めてもらう。 ・町内会の会合などにも出向いて樹木の話をして理解を深めてもらう。 ・落ち葉の時期に合わせてタイムリーな記事を広報に掲載してもらう。くらし支援課が広報を活用する。→お金をかけずに啓蒙する。 ・樹木を守るための方策を検討する。 ・落ち葉に対してもう少し寛容になろう。考え方を变えることをアピールする。 ・落葉のない樹木に針葉樹があるが、花も実もつかない樹木は寂しい。 ・プラタナスの葉の裏に毛があるが、それが排気ガスを吸収すると聞いたことがある。 ・プラタナスは幹が柔らかいので、例えば車が衝突すると木が倒れ、車に対する
--	--

衝撃が少ないとも聞いたことがある。

- ・落ち葉からペレットを作ることができないか。
- ・回収した落ち葉は最後にどうなるのか？
- ・堆肥化するという考え方もあるが手間がかかる。
- ・特にプラタナスは葉脈がかたいので堆肥になりにくい。
- ・街路樹も含め、樹木の効能を伝えていくことが大切。

●川

- ・川の歴史を民間の団体でも教えてくれるところなどはないか。川・木・森を自分たちの身近に感じるためにその成り立ちなどを学ぶことは大切。
- ・江別市の防災センターに石狩川を航行していた外輪船の実物大の模型が展示されている。
- ・まちの歴史は郷土館に行けば学べるが、やはり実物を見るとよくわかるし、イメージしやすい。
- ・ハコモノを作ればよいという意味ではない。
- ・川と屯田の関わりもある。
- ・郷土愛を育むためには、滝川の成り立ちを学ぶことは必要なこと。
- ・川・森を大切にし、それにより農業が発展していく。つながりを学んでもらいたい。
- ・来年のエコ部の取組として考えても良いのではないか。
- ・高校生が自分で感じて気づいて次世代に引き継いでいく。
- ・子どもから大人に伝えること。
- ・遊びから学んでいくこと。原体験を通じて気づきを与える。そこから自然を大切にすること。環境を大切にすることを学ぶ。
- ・短期間で効果が出ることではないが 10 年くらい地道に継続していけば成果が出てくるのではないか。
- ・今やらなければならない。少しずつ取り組んでいくことで 10 年の中で「葉 1 枚もいとおしくなる」子どもが出てくるかもしれない。
- ・小さな子どもが遊べる場所があるか。
- ・滝川は空知川と石狩川の合流地点だが 2 つとも大きすぎる。
- ・安心して遊ぶ、遊ばせる場所がほしい。
- ・川が身近に感じられなければ、2 つの大河に囲まれた滝川の特徴が生きていない。
- ・かつては町中に小さな川がたくさんあったが全て埋め立てられてしまった。
- ・浅い川が 1 本でもあると違う。水を見ているだけでも違う。
- ・恵庭市を流れる漁川では、川をきれいにしようという運動が起き、きれいになると人がたくさん歩くようになり、そうすると川沿いに住む人たちは、家の周りをきれいにした。そこからガーデニングが盛んになった。時間がかかったが川を中心に美しいまちが作られた。
- ・最近子どもたちに「川で遊んではだめ」と指導するため子どもたちも大人も川に近づけなくなった。
- ・国に 1 か所でも子どもたちを連れて遊ばせる場所を作ってもらいたい。
- ・川と市街地が遠い。
- ・安心して遊ばせる場所を作ることを国に要望する。
- ・危険がわかっているで遊ぶのと、わからないで遊ぶのは違う。
- ・川のそばに「危険」「近づかない」などの看板が立っている。なぜ危険なのか

を教えなくてはいけない。

- ・熊穴川などは良い河川だと思う。
- ・空知川は、本流の切替工事をした結果（啓南団地付近）浅瀬になった部分がある。そのような場所も活用できないか。
- ・自然を大切にすることを学ぶ必要がある。

●農業

- ・J Aも昔は学校給食での食育活動に協力してもらえたが、最近は難しい状況になってきた。
- ・学校とJ Aとの連携が難しくなってきた。
- ・なぜ木を植えるのか、なぜ食育が必要なのか。
- ・市内には様々なマイスターがいるのになぜ広がらないのか？
- ・インターネットを活用したPRが必要か？
- ・ダイエットに効果があるなどとテレビでPRされればモノは売れる時代。
- ・自分の身近なところから環境を見直す。考えていくことが大切。
- ・食育の活動が総合的な学習の時間の減少により確保しにくくなってきている。
- ・農家が学校に出向き、子どもたちが話を聞くのはとても貴重な機会。子どもたちが食べ物に興味を持つ。
- ・実物を見せる、触れる機会が子どもたちには必要。
- ・農家で農業体験ができなくても学校の畑で体験すると良いと思うが、先生も忙しくて手が回らないのが現状である。

■多様な主体や世代が協働して環境保全に取り組むまち（環境コミュニティ）

●環境教育

- ・子どもたちとはどの世代を指すのか。
- ・幼児から高校生くらいまでを対象として良いのではないか。
- ・それぞれの年代に合わせたカリキュラムを作ることに対応できると思う。
- ・人材バンクは教育委員会の管轄か。
- ・自分も登録しているが1回も声がかかったことがない。
- ・様々な知識を持った人が市内にはたくさんいると思う。そのような人たちを登録し、データ化していくことは今も求められている。
- ・子どもを教育する前に親を教育する必要もある。特に小さな子どもを持つ親に訴えることが先決。
- ・現在、幼稚園児を持つ親からは本当にきれいな環境の中で育った世代になっている。
- ・親が指導しないと子どもたちには伝わらない。
- ・保護者が集まる機会にそのような学習会を開けないか。
- ・本当の自然の意味を考えられる機会が必要。
- ・現代は不自然な自然が多い。本当の自然を考えること、知ること。
- ・体験学習だけではなく、ちょっとしたことで気になったことから興味を持ち、探究を始めることが大事。
- ・知識を詰め込んで行事をこなして終わるのではなく、その後につながるものが大切。参加したことから何かに興味を持つこと。
- ・それがきっかけで自然の中に出ていく機会が増えれば興味も広がるはず。
- ・人材バンクも必要だが現代はインターネットで検索できる時代。検索の速さ、

時間が勝負だと思う。

- ・子どもの姿をよく見ることも大切。
- ・最近の親は、すぐ子どもから目を離す。危ない。叱るだけ叱って何が危険なのか何がいけないのかを教えていない。

●食育

- ・子どもだけでなく、大人へのアプローチも必要。食育の対象は子どもだけではない。
- ・栄養士など専門家の講演会はどうか。
- ・「好き嫌いをなくすためには」など興味を持ちやすいテーマで行うべきである。
- ・ダイエットに絡めると人は集まるのでは？
- ・「滝川の食材を活用して体を作ろう」というテーマで1 レシピを紹介するとか。
- ・美唄市に宮島沼とマガモを守る「自然戦隊マガレンジャー」という活動がある。
- ・リーダー的な集まりを作ることも面白い活動。
- ・小さな集団から広げていくことも必要。
- ・活動を横につなげていき少しずつ知識を深めていく。
- ・地道に活動が続けていくことが大切。
- ・学校を通じてPRしていくことはできないか？
- ・環境に関する豆知識や健康レシピなどを学校の廊下に掲示する。それを継続して知識を深めてもらう。
- ・少しでも市民が滝川の食材について知り、栄養などについて学ぶ機会を作れないか。
- ・新しく作るのは難しいと思う。今やっている調理実習の内容を充実させることもひとつの方法である。
- ・地道にあきらめずやり続けること。いろいろな戦法で攻めていかなければならないと思う。
- ・親の教育は専門家しかできない。素人ができることではないと思う。
- ・食育の専門家などを登録して講師として招くなどしてはどうか。

■個人的な意見

○環境学習について

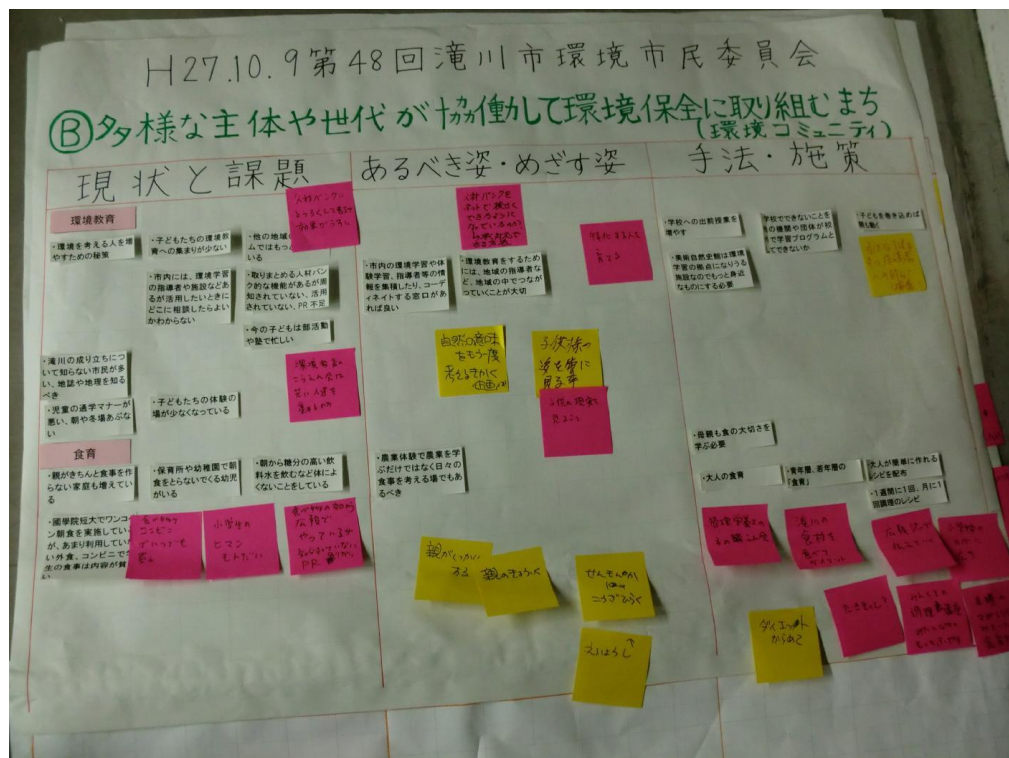
- ・子どもたちをはじめ、現代は選択肢が増え、それぞれが高い水準のためそのときの好みに応じて活動を選ぶことができるようになった。
- ・全ての子どもたちを振り向かせることはできない。興味のある子どもに特化しても良いのではないか。
- ・そのためには年齢やキャリアに合わせてステップアップできるしくみが必要。
- ・それを実現するためには、専門家の配置が必要。

○身近な遊び場

- ・新たに作るよりも新たに見つける工夫することの方が楽しそう。

○その他雑感

- ・美術自然史館・郷土館が果たす役割は大きいと感じた。その役割が果たせず、館の機能が縮小していくことは残念。
- ・環境学習の拠点としての美術自然史館、滝川の成り立ちを学ぶのは郷土館と位置づけてはどうか。
- ・博物館は実物を体感できるとともに活動のフィールドを持っているので、本当はこの計画の中で大きく位置づけたいところである。





(ワークショップまとめ)

事務局) 今回、いろいろな意見を出していただいたものについては、事務局で本日の内容をまとめ、整理した上で、次回基本計画の方針にまとめる形としたい。

4 その他

次回スケジュール説明

- ・事務局より次回開催日について説明
- ・次回会議は10月22日(木)16:30~予定
- ・たきかわ環境フォーラム「新版ECOフットパスマップ 滝川を散歩する」の紹介

5 閉会

会議資料	資料1 評価シート修正表 資料2 滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書(案) 資料3 ワークショップタイムテーブル、進め方
------	---